



并家三郎の書体抄



二集

三



虫齧ふ死別を悲しけれ。何れに何れせん。頭を傾け多し。又死て尋思の層は憂
 胸の鬱を遣ふか。折る小六を懐より。香氣忽地馥郁と。黒く初てあつた。噫
 噫忘れると。とあれ。比那仙嬢の夢中。授けぬ。仙丹の覺ての後。俺懐に在り
 ける。徳而歌。舎か。へ末。ける。その黄昏。小吉の病着。劇し。え。うら。敬篤。古又の
 紛れて。那仙丹。鈍。や。久く。思ひ。出。外。小吉。を。徴。め。ん。珠。玉。と。忘。れ。れ。尾。研。と。愛
 老和氣丹波。と訪。ぎ。と。博。古。湯。と。市。賣。場。由。合。見。も。似。さ。り。け。る。然。る。も。那。仙。丹。今
 ま。失。せ。あ。り。け。る。口。の。残。香。の。さ。る。飲。と。獨。語。の。懐。と。那。這。と。搔。撈。の。幸。ふ。く。仙
 丹。の。折。紙。の。包。い。終。て。落。て。左。の。袂。に。在。り。し。稍。合。出。ら。ち。戴。て。原。這。某。の。三。粒。を
 せ。し。その。一。粒。の。俺。夢。中。の。腹。試。ま。り。し。記。憶。日。屬。十。倍。あ。り。と。夢。も。似。せ。甚。麼
 を。あ。と。廢。吉。の。病。着。用。へ。ろ。と。忘。れ。れ。只。是。他。命。運。の。既。盡。す。兆。の。後。遮。莫。枯。る
 苗。も。活。る。雨。露。の。東。心。の。要。る。と。右。と。伸。し。且。廢。吉。が。胸。膈。頭。と。那。這。と。拍

試る。全身既。小。胸。冷。れ。も。中。腕。の。不。温。然。バ。と。と。遠。く。身。を。起。し。提。桶。水。
 茶碗。の。汲。り。火。を。鎖。被。て。然。而。那。仙。丹。一。粒。を。撮。合。の。要。時。念。と。廢。吉。が。口。中。の。水
 の。共。み。込。み。入。れ。て。その。吭。に。拊。胸。と。捺。ふ。其。の。胃。中。の。屈。り。ん。現。死。と。起。し。生。の。回。せ。し。神
 茶。の。效。時。程。を。廢。吉。の。忽。然。と。甦。生。の。眼。を。開。て。身。を。起。せ。し。程。の。涎。沫。を。吐。死
 汗。も。心。地。爽。然。あ。る。ま。り。小。六。今。這。仙。丹。の。奇。效。と。感。ず。不。勝。の。飲。む。正。首。勲
 して。然。而。粥。を。造。て。薦。め。し。廢。吉。の。二。碗。啜。り。て。その。宵。の。熟。睡。と。た。り。け。詩。目。不。至。り。て
 名。を。病。着。痊。り。果。て。小。六。對。して。看。病。の。飲。ひ。演。る。と。登。時。小。六。を。廢。吉。の。那。仙。丹。の
 奇。特。の。顛。末。の。日。獨。後。醍。醐。帝。の。山。陵。の。詰。折。憶。も。假。寐。を。る。夢。中。の。女。仙。の
 招。れ。て。告。示。され。し。言。の。よ。と。箇。様。々。と。報。知。り。し。那。折。の。授。け。ら。る。仙。丹。の。三。粒。を。し。し
 一。粒。の。女。仙。の。薦。め。不。儘。と。夢。中。の。喫。り。餘。の。三。粒。の。後。々。不。必。用。る。と。あ。ん。と。い。い。し。し
 ち。き。う。ら。忘。れ。と。和。郎。の。呼。吸。絶。え。し。折。那。仙。丹。の。香。氣。ま。よ。り。て。思。ひ。出。し。試。み。の。噴。せ。し

河内の城不在。舎弟俊泰の垣内不在。城も。這宅阿射賀玉丸関上野神戸の城。関の
 一黨神戸山峯鹿伏免木造川北柘植山路阿保の二族老黨譜弟恩顧の志。程
 らる。故國司頭泰卿の時より。壁言唐の節度使の如く。実小南朝一方の捍城也。あり
 けれ。い。元中九年の冬。南北西朝御合體の折前將軍相國入道。足利。北畠。の。宜く
 沙汰。今。伊勢の團司。親能。亦。恩。感。と。太上皇。後。太子。の。

今上後小松帝の東宮立まらんと。松言れる。約束あれ。足利家。恨。と。送。去。て。萬。

意。違。と。と。叮。寧。の。せ。れ。と。義。滿。も。亦。歎。び。て。好。と。結。ん。ぬ。諱。の。一。字。成。授
 け。け。つ。れ。よ。り。親。能。の。名。と。滿。泰。と。改。め。て。小。倉。宮。後。龜。山。天。皇。の。御。位。小。即。あ。ん。日。果。敢
 る。も。等。よ。う。外。他。支。も。多。く。也。年。來。と。過。さ。れ。り。間。話。休。題。却。説。小。六。と。飼。阪。の。里。稍
 盡。處。る。馬。頭。堂。の。境。内。の。煎。茶。店。小。休。ひ。て。茶。店。の。翁。小。遠。處。よ。り。多。氣。の。城。へ。く。路。程
 と。那。里。の。容。子。と。問。け。る。小。翁。答。て。滿。泰。卿。の。阿。射。賀。を。居。城。小。去。あ。ん。と。去。歳。よ。り。城

普請の御沙汰あれ。今。多。氣。小。御。座。又。又。子。伊。勢。の。御。曹。司。頭。雅。君。の。大。河。内。の
 城。小。在。其。約。莫。這。兩。城。下。の。敏。目。日。廿。日。あ。ら。う。と。い。け。り。小。六。と。あ。れ。を。修。る。が。廣。の。柱。を
 瞻。仰。る。小。柱。小。箇。の。針。を。打。て。替。へ。る。肩。と。掛。る。が。最。美。し。い。迹。也。と。学。び。ぬ。も
 る。足。る。と。知。る。べ。し。親。の。書。と。む。子。と。い。ぬ。五。柳。隱。士。と。あ。り。け。れ。が。戀。々。と。連。り。お
 う。の。吟。ま。て。あ。と。是。博。士。の。歌。る。べ。し。萬。葉。集。第。五。卷。の。山。上。憶。良。の。歌。の。銀。も。あ。る
 糸。も。玉。も。何。せん。も。あ。ら。う。た。う。子。小。あ。ら。う。ゆ。も。と。詠。ふ。所。と。取。れ。る。人。憶。良。が。歌。の。子。宝
 と。今。世。の。常。言。の。起。本。る。べ。し。又。這。歌。の。情。異。之。子。の。世。の。人。の。皆。奉。上。と。そ。か。中。の。不。出。月。の
 賢。る。の。極。と。い。ふ。下。父。賢。く。し。て。子。も。賢。る。が。親。の。書。と。よ。く。讀。て。志。を。紹。ぐ。と
 あ。ら。う。を。真。の。宝。と。い。ふ。詠。ふ。則。述。懷。也。高。深。情。也。知。れ。ら。る。這。詠。家。と
 何。処。の。人。と。問。へ。小。翁。真。実。立。ち。原。來。お。身。の。歌。と。好。ま。て。詠。め。お。身。を。あ。ん。と。い。ふ。這。詠。家。の
 歌。主。の。う。さ。い。と。哀。れ。る。話。説。の。い。ふ。去。向。と。急。だ。ぬ。い。ま。話。一。稟。さ。ん。ゆ。あ。ん。と。い。ふ。身。

過のありん。這里よりハヨと氣のまへ約十町をうる。字五柳と吸做と瘦村と稻城石膳
 守延との。學者氣質の退禄人なり。原の國司の御家臣也。俸禄三百貫成賜でし。南
 南朝北朝を和睦あり。比國司の京都前將軍家の諱の一字を賜して満泰と改
 めぬ。守延主酷く諫め。その議を奪いと京來りと朋輩の諛言を野心のより
 え。遂に那身と禁錮せられ。百日あまの不及か。野心の實を認められ。絶罪を
 宥られて身の暇を賜せけ。徳而稻城守延主の。終妻子を推乃て那五柳の退隱人
 字と文作と改め。其頭の里の総角の讀書の蹟を教ると十稔許を送りけり。
 文学武藝大なる。ね。京鎌倉小赴て仕官と未めぬ。其後亦る。易を傳へ
 國司の譜第之忠を盡しと用ひられ。冤屈を放るとも二君仕へ。細煙を立る
 ぐら。不清貪を樂ま。村の字と家號を取て五柳隱士と唱へ。唐山司馬晋の
 時陶淵明と。賢人の。五株の柳あり。則五柳先生と稱へ。故事。縁の

るんと有。一長老の宣ひ。性も愛。死性るれ。過世。て男兒。ある。才。一個の女
 見。その名。何と。今。茲。十六。七。る。容。止。最。美。麗。心。標。三。鄙。る。縫
 刺の枝。走。書。亦。愛。て。三。親。孝。順。筋。目。好。豪。家。より。の。娘。せ。ま。く
 ほ。と。て。氷。人。を。の。せ。我。名。汝。の。女。作。刀。祢。の。婿。と。擇。ま。さ。れ。た。と。云。え
 たり。悠。り。一。程。國。司。の。權。臣。木。造。内。匠。親。政。大。人。の。嫡。子。也。木。造。木。二。介。泰。勝。主。が
 件。の。稻。城。の。女。見。の。美。女。也。少。知。て。好。色。の。癖。有。れ。ば。不。恋。胸。や。焦。と。け。ん。
 い。て。側。室。を。娶。り。て。利。を。と。て。誘。れ。り。と。文。作。刀。祢。の。女。と。て。女。見。を。售。て。時。勢。人。の
 妾。を。遣。て。非。除。館。の。御。徒。を。女。見。を。徵。さ。る。の。由。り。俺。身。も。俱。小。刀。返。され。り。
 伊。勢。半。國。を。賜。る。も。妾。を。遣。り。て。女。見。を。せ。ん。や。況。木。造。泰。勝。が。父。と。妹。の。權。威。と。利。
 誘。引。ん。人。の。依。り。正。妻。と。も。婚。姻。を。允。さ。り。の。由。り。と。辞。を。放。ち。敦。園。の。一。切。美
 引。ぎ。られ。泰。勝。主。も。亦。怒。り。て。その。誤。り。を。術。あり。必。し。も。せ。ん。と。罵。り。狂。ひ。ぬ。

去とむとのひら声と密りく。あま内所のさき。然る腹黒に主ぬれ。腹心若黨
のこり。うきまき。あまひま。うきまき。との。といで。やあひ。ひすり。うきひと。
袋とる。秋機密と示。隙と張。大作刀袷の外。中折。天庭。女兒と奪。思答ら。宿
所。小艱。措き。よ。あ。の。ひ。を。く。せ。え。い。大。作。刀。袷。の。怨。ふ。堪。む。次。の。日。を。氣。へ。赴。て。
國。司。小。愁。訴。宣。せ。か。も。然。と。證。据。を。見。る。れ。木。造。主。の。冤。枉。を。と。く。頼。陳。と。物
との。せ。せ。老。爺。の。一。の。權。臣。を。み。妙。脚。の。館。の。か。側。室。あ。て。引。板。屋。殿。と。喚。れ。る。這。内
外の。幫助。も。あり。けん。國。司。の。薄。情。や。感。せ。あ。て。證。据。を。見。る。れ。と。て。御。信。用。を。り。か。ら
有。司。達。訴。人。の。論。と。訟。狀。を。返。せ。と。む。の。故。小。大。作。刀。袷。の。憤。り。胸。み。満。て。その。冤。と。叫
べ。と。支。聽。ま。り。甲。斐。あ。む。を。所。詮。大。河。内。へ。推。參。し。と。愁。訴。の。よ。と。御。曹。司。の。歎。泣
京。ま。萬。小。一。宜。見。御。沙。汰。の。あ。ん。然。と。宿。所。へ。立。あ。む。ま。亦。大。河。内。へ。あ。ま。く。あ。る。
その。臆。昏。の。と。あ。あ。り。ん。樞。反。山。の。頭。を。山。賊。ま。の。所。為。る。欲。憐。想。一。大。作。刀。袷。の。獵
箭。胸。膈。を。射。徹。され。て。軀。を。む。く。る。あ。け。り。その。日。多。氣。あ。ま。り。五。柳。村。へ。下。知。あ。り。村

長門を口よみ。れ尸骸と遞与。のりけ。五柳村。お昇りて。返して。送。葬。儀。の。お。ま。り。
執。り。て。ま。の。濟。し。か。痛。ま。り。主。の。内。儀。へ。最。愛。の。獨。女。の。奪。略。れ。り。良。人。の。横。死。
仇。き。知。る。も。口。泣。明。一。泣。暮。と。飯。も。甘。薦。ま。ま。夜。の。目。も。合。ま。一。日。二。日。と。浩。嘆。疲。勞。と。病
臥。く。在。ま。ふ。と。人。の。噂。お。き。る。の。却。這。扇。の。大。作。刀。袷。の。這。里。の。觀。世。音。と。信。し。ま。り。り。
折。々。ま。あ。り。の。毎。お。咱。們。が。店。舗。お。立。上。り。茶。と。喫。ま。て。浮。世。雜。談。と。听。も。あ。り。話。も。あ。て。
樂。ま。せ。れ。が。の。日。是。を。俺。店。舗。お。ち。ま。ま。運。り。お。い。け。り。その。次。の。日。の。と。ゆ。あ。り。けん。
件。の。横。難。起。り。か。さ。て。來。の。暇。を。あ。て。黄。泉。の。客。と。り。あ。ひ。る。主。の。記。念。で。い。の。那
内。儀。の。參。詣。あ。り。その。折。返。し。ま。る。と。ゆ。め。の。あ。り。ま。り。柱。を。搦。て。措。け。死。任。お。り。
情。由。で。い。の。心。長。困。物。を。い。を。小。六。を。守。り。憶。も。も。春。と。捺。り。齒。を。切。り。て。世。中。を。又。听。は。れ。
堪。ぬ。不。平。の。の。の。あ。り。け。り。と。敦。團。だ。ら。又。その。扇。を。つ。ら。く。う。ち。吟。ん。連。の。小。嘆。息。を。あ。り。
る。度。吉。も。這。長。談。を。夢。果。る。折。心。死。け。ん。暮。初。る。日。の。空。を。瞻。め。り。尋。氣。ま。ま。一。里。半。と。る

清白信士と寫されし小机の安措。花あり水あり常香盆の煙と共雲存せり。然
 として想像る小六を老婦と對して其の東國の處士達小六と嘔吐せり。當國
 司の舊縁わかれ安否を伺ひ宣示し與ひ今番這地お來られども。多きを氣に赴きけり。人
 の噂よりして文作主人と云ふ。その退隱の緯の顛末今愛の。今番の横難主の
 横死の事をも大に知り。其偏愚の性と不平の支を聞き。怒氣胸の
 満て勝らざる。然る親疎の差別多。その冤を伸恥と雪めて人の患を拂ふ。と云ふの事
 年弱ければ。その事を試み。安所の横難。其國司の舊縁あり。對面の折時
 宜しうして許宣示。今愛と合復を飲む。是亦亦知る。其の事を商量せま
 くほし。未だ推參致した。実なれらの事あり。と回て老婦の感涙の進む。と云ふ
 推拭して人の凋落の折。親族故舊も疎くる。総て浮世の習俗ある。尚抄
 弱は方々の人の噂と身お橋て。親切なる。死計いせ。有か。親子の幸いの上や

侍る。既に推量せられ。奴家の主人稻城文作守延。妻花樹あり。過世して
 男兒あり。獨女の婿招後。去歳よ今茲と過去。執念深人の奪れ。往方々
 其首を猜して。證據され。秋心訴も。連志。親良人の敷。仇の秋と思ふ。と云ふ
 その亦照驗ある。若し。朽くも哀くも。堪ぬ。怨の身と措きて。病煩の。婦
 女子の甲斐。年来信。觀世音の御名。唱へ。朝々。祈念。他。更。ある。あり。の
 かつ。喪中。おゆれ。拜。神。の。憐。の。ひ。け。菩薩。の。特。更。感。應。の。慈。眼。と。回。り。の。て。り。
 初。め。目。は。拭。り。ぬ。死。身。信。ま。で。憑。り。た。幫助。ふ。よ。て。奴。家。が。女。兒。と。返。さ。る。と。あり。の
 せ。い。と。再。生。の。御。恩。お。ぼ。り。と。人。傳。お。知。れ。ど。く。女。兒。の。往。方。の。良。人。の。横。死。も。方。僅
 間。ま。る。趣。お。此。も。違。い。は。ら。む。か。信。の。誇。自。の。子。と。譽。る。お。似。れ。も。他。の。幼。稚。比
 よ。と。親。孝。順。の。一。の。浮。る。方。あり。と。疎。と。て。て。の。女。子。お。異。り。の。義。理。の。賢。一
 性。多。れ。那。仇。人。お。掠。奪。られ。く。日。と。経。ると。も。身。の。儘。さ。奴。家。觸。て。殺。さ。る。と。云。ふ



木かれ柳のちうい丁をまろ
 隠んどくをまろまろ下
 暗懸可無作
 裡有神明
 たのちあるのまろまろ

伏魔殿第二輯卷二

十三



伏魔殿第二輯卷二

三十三

有像第廿一

正容易くぞ。什麼を死と問試る。小雨具笠鹿と荷擔る奴隷の故郷の伊賀の
 山里ゆく。樵薪を生活小あたるあり。在下小仰付られる。立地小那樹小登りて女の
 子と扶卸まべ。との小守延飲びて。そを幸ひる。居とをが。落さぬ。小快けよ。とのそ
 が。女の子の。縛。結々。と。喚り示し。主僕樹杪を向上。と。小程小件の奴
 隷。細引の麻索を。腰小挟。三。榦を。抱。え。攀。登。ると。逸。速。く。瞬。間。小樹杪。に。到。りて
 女の子の。腰小麻索を。結。着。り。下。枝。ま。り。小腋小抱。え。下。り。ま。り。其。首。より。徐。小
 も。解。卸。ま。を。下。る。若。黨。受。合。を。や。ぞ。抱。え。守。延。の。身。邊。へ。寄。り。居。け。り。
 女の子の。既。小極。ひ。を。ゆる。く。遠。く。來。小ける。身。の。所。縁。心。の。と。る。く。思。ひ。は。只。只。潜。然。と。ち
 泣。け。り。守。延。相。り。慰。め。り。那。癖。者。の。做。り。趣。女。の子。の。親。の。名。里。の。名。と。叮。嚀。す。り。翰
 毛。の。女。の子。の。や。う。な。く。涙。と。飲。め。て。俺。が。親。里。の。陸。奥。の。信。夫。郡。の。片。頭。関。と。渡。瀬。の。間
 なる。浪。人。某。甲。の。女。兒。あり。今。茲。の。南。の。七。歳。あり。名。を。信。夫。と。喚。ま。は。り。の。毎。日。城

隍の神會の折四鄰の女の子小誘られ。漫行をま。け。り。那。女。人。小擧。げ。り。遠。く
 這。里。ま。り。俱。せ。り。ま。り。の。通。途。幾。番。り。脱。去。す。り。思。ひ。か。ど。も。唇。の。甘。味。小馳。ひ。も
 ち。然。る。後。ま。り。被。せ。り。推。並。び。て。此。も。由。割。せ。り。一。く。思。ひ。の。ま。り。便。り。を。夜。の。亦
 側。小臥。た。れ。せ。ぬ。術。あり。ま。り。泣。く。毎。日。那。女。人。小慰。め。り。左。て。右。て。も。這。里。ま。り。來
 て。の。親。里。へ。還。り。か。り。の。俺。越。後。の。新。瀉。秋。三。國。湊。へ。お。り。由。り。て。愛。を。家。ま。奉
 公。を。せん。の。折。俺。們。を。小父。公。と。の。ひ。の。那。里。へ。人。皆。富。饒。あり。甘。好。東。西。多。く。あり。
 美。衣。を。被。せ。り。最。艷。妖。し。諸。姉。妹。と。共。侶。あり。旦。暮。の。憂。を。轉。し。て
 飲。び。と。做。ま。樂。ま。の。形。を。む。ね。を。泣。く。と。教。勿。泣。と。問。る。時。り。賺。り。小鏡。を
 買。よ。て。取。せ。り。と。け。の。越。路。入。り。と。山。又。山。の。雲。分。れ。り。踰。々。來。ま。り。と。路
 なる。去。向。小老。山。樫。あり。俺。身。の。山。路。小勞。れ。り。那。女。人。由。疲。勞。ま。り。俺。身。を
 肩。小うち。無。事。に。既。小件。の。樹。下。と。過。え。と。せ。り。程。小東。へ。差。る。大。枝。と。な。り。間。の。遠

伏見傳第二卷

五十一

然と泣く答難うと屢問き辱し申す絶は涙を斂めて左てのち申身六
 かるる親里の天をかくゆれも小宣の徳もる。けより御座の澤々欲を宣く計
 らせぬひとの守延領を却伴當もあつたる行轡の信夫を棄てその身を
 歩行せ先不找多。その宵歌店を着し折御宗信夫を扶却せ奴隷并の若黨
 們を勞ひつ賞禄を取せ。信夫を身邊に招たけり。御宗の阿女が親里の名を徳々
 と穿てるもの。まご父親の名字を知らず憶ふ必由緒ある武家の退禄人にてあつた
 具の報よ甚麻を。と問を信夫のつあへ。と宣きとる。同堂言の父身多さ。幼々
 さとの。唱へく実の名とらひ。と申す。今必以とる。今返さる。倦身
 らねど。要する。と推辞と守延意衷の猜し。休まら。伶俐な女の子の
 ゆふ。その親の名も氏も素生も知ざるとあるべし。然るに隠す故あり。と目今送返
 さしぬ。その身の安危不定。名告り。親の羞るべし。と深くも念す。あはれ。是も亦庸

常る。女の子の及ぬる。と情々地地感して再問を。あはれも。眼驗の。書記の
 あはれ。と申す。信夫が腰の附る。神符裏を解して。内中。陸奥の。塩田。明
 神上野。赤城。明神。武藏の。箕田。八幡。と。護身符。二枚。と紙の包み。脐帯の
 正。応永二年乙亥の秋七月七日午初刻生。まの。ぶ。の。を。寫した。あれも亦。親と
 知。よ。る。け。故。の。如。囊。收。り。腰。返。し。二。日。と。も。程。小。愛。を。し。あ。も。弥。増。て。
 遂。不。捨。た。思。ひ。あ。の。既。不。し。七。日。と。申。す。多。氣。の。城。に。歸。着。せ。先。信。夫。と。伴。當。を。
 謀。宿。所。遣。し。守。延。の。城。に。登。り。返。命。を。せ。あ。げ。休。息。の。暇。を。賜。り。その。宵。宿。所。に。
 退。り。妻。の。老。樹。に。依。り。と。信。夫。が。つ。と。説。示。し。他。の。女。子。は。あ。れ。を。今。よ。り。渾。家。に。儘
 ま。る。宜。く。勅。り。あ。か。し。の。老。樹。に。愛。懼。び。て。才。と。感。下。厄。と。憐。と。世。隔。も。多。く。款。待。け
 且。信。夫。の。よ。く。恩。義。を。感。ず。主。人。夫婦。を。慕。ひ。け。小。程。守。延。の。信。夫。が。癖。の。趣。致
 い。主。君。お。せ。え。の。け。く。免。許。を。宣。す。陸。奥。へ。送。り。遣。さ。し。け。れ。と。姑。且。便。宜。を。現。し。お

落て死すの身かり因り地方の農夫們が埋んとてけふふ門が猛可に病室有護りて
 身故でるも妙くねば這井の霊の祟りをもとて遂に又これを埋めざるは石と蓋し
 落く死したるの與に地藏井と建立して這堂内は安措をれば今この野井の地藏と
 稱て鄰御までも知るぬる。信縁起の石僧も死するの霊ありて殺生入を
 忌嫌るるの故あるあづるに什麼けの山獵の何等の御要でいそむと問は然る。點
 頭てけの御要までも知るぬ。和郎の那密支も拘らひるのれは今ゆゑ隠さるる
 ありて俺家の小官人が御高の奪命合ひたる。稻城の女兒信夫と申す。宿野は隠し措
 けあるもまごふらる不従の威勢とて迫るる本意遂易なるれども然し風味
 厚からぬ他が心から。此の隨ふら靡して賞玩を便直も欲得と其良方と徴
 りある山獵との獸あり。その性甚淫るるの也。同類ある猿猿貉狸兎小至るをその
 牝をえれば趕逼りて。交むるとある。猶遇ぎて敵と獲されればその情慾のする方

漫り山の樹と抱たり。幾日麻枝も放れぬ立枯ふるものをも。西戎のまをて。房
 茶ふる故の價最貴かり。然らば山獵の血を合て酒を雑て飲まれば甚る身嬌烈
 女も春心の發起し。飽まで男と昔よと磁石の鐵を吸ふが如し。と有一醫師の稟
 ありて小官人欽びひて。その山獵の本邦中の山吏早よりと。せげの程遠く大坂山
 国見在ゆあるべは然是も亦知ぬ。は素より獵を好む。角弓とて射殺る。御高
 あり記右衛門と共侶は俺那機密と耳示して。文作奴と結果ける。本支おより命
 ぐる櫃阪山と初と。其頭の高峰と涉獵て。那山獵と射て捉る賞禄を先
 度お十倍と何まれ彼れ取ま。とせよか。と町寧の仰付られければ。怪のこく。准
 備を。今朝未明より。折天と晴て暖る。這頭て雨小遇ん。心もつ。雨衣を
 忘れ。束縛の俺の。敵介和郎も脱落おけ。と。敵介听惚れ。原来。山
 獵の獲東西次第で。咱們を。御意小預る樂。勿論今番の山獵の然る。



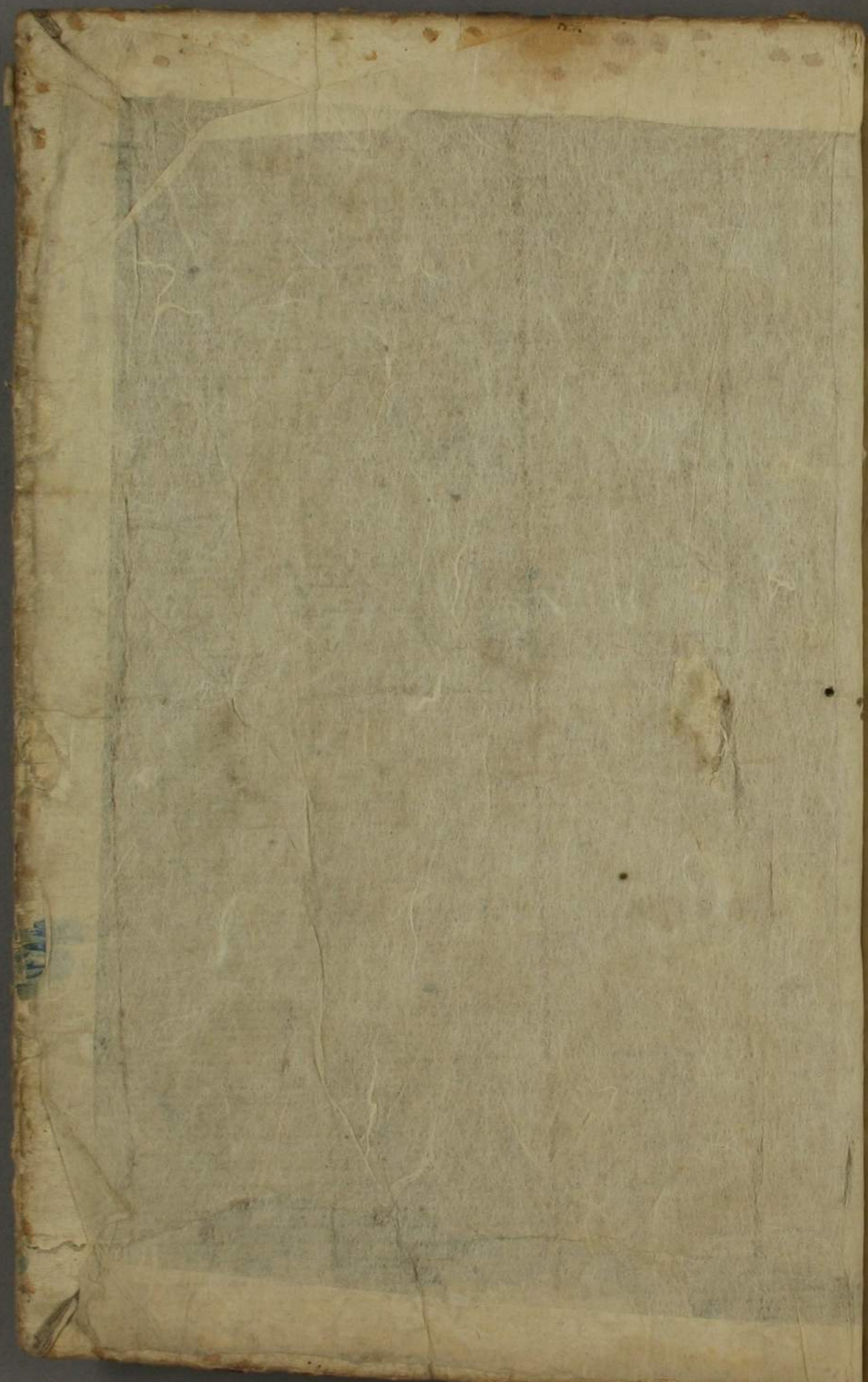
有像録卷二
 九四

有像録卷二
 九四

撲地と蹴落けかと。那大石と軽々と抬起あがりと。舊の如く井の蓋ふたも人の息いきも此
 透間すきまを用もち。二條の索の端を五尺あまの引送ひきこ。結留むすめ。呵々かかとち笑わらひ。これ
 杉内敵介すぎうちのかいすけも命惜いのちをく声こゑも立たて。のりよりの少すこゆ飲のと喚よへ。杉内敵介すぎうちのかいすけも
 穴あなの隠口ひそかのちろろ一声响いっせい。憊うて小六せうろくも庶吉しよきの搭たかせ。まゝ行裏ゆきうらも。ち披ひり。く
 準備じゆんびの衣裳いせうも合あひ中ちゆうの遠とほく。身み装まへ。て。崔さい集しゆる。多たく氣きの城しろへと出いで。後方あとへ小せう従じゆ
 小六せうろくも脱だつ行ゆき衣いと又また袂たもとも推おち。ち背せちち掛かて。俱ともも。二百にひゃく歩ぶも過す
 ぎ。それそれは前路ぜんじゆの方かたより。叱あざの声こゑ苛こめ。く。轎こし子こちち乗のる。一個いっぴは貴き人にん陸りく續ぞくる。
 伴當ばんたう約やく百ひゃく四し十じゆ名な對たいの和室わしつ鎗やぶら。二藍にらんの紫むら紉ぢゆの挾くわ筥こ台だい傘かさ建た傘かさ眉まゆ尖とが刀やぶらも尚なほ已ま
 時ときより代しろ衣い輕かろ行ゆき列れつ正ただく牽ひ駒こまの後のち小せう隸り。ち伴ばん鎗やぶらの枝えだも花はなと掉た柳りゆう春はるの野の面めと徐じゆ
 と俱ともと這方こゝろへ近ちかる。末すえ身みは這こゝろへ入いり誰たれも。ちある次つぎの卷ま首くびも解と分わかはと聽きか。
 用卷もちまき驚おど馬うま奇き俠ぎやく客きやく傳でん第二集だいにしゆ卷まき之三のさん終つひ

全
 同
 町





同卷... 奇... 快... 客... 博... 第... 一... 卷... 第... 一... 卷... 第... 一... 卷...



卷之二

卷之三

